

要請番号 (JL00618B04)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
インドネシア	G112 陸上競技		個別	交替 2代目	2年	・ 2019/1 ・ 2019/2 ・ 2019/3

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

青年スポーツ省

2) 配属機関名 (日本語)

南スラウェシ州青年スポーツ局

3) 任地 (南スラウェシ州マカッサル市) JICA事務所の所在地 (ジャカルタ首都特別州)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (飛行機+車で 約 4.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

青年スポーツ省は、2018年のアジア大会、2020年の東京オリンピックでのメダル獲得を視野に、選手の競技能力向上のみならず指導者の育成、スポーツを通じた青少年の育成、様々なスポーツの発展と振興をめざし、スポーツの拡充と強化に取り組んでいる。任地は人口200万を数えるインドネシア第4の都市である。配属先は州政府の支援を受けているスポーツ学校(SKO)と青年スポーツ省の指定競技選抜選手制度(PPLPと呼ばれ、地区選抜選手が対象)を管轄している。配属先の予算規模(2018年)は約7億8千万円。過去、スポーツセンターに陸上競技JV名(2013年度1次隊)が派遣されていた。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

配属先はボート、体操競技、ボクシング、アーチェリー等7種目を重点スポーツと位置付け、国内外の大会等で、より良い成績を収めるべく、指導者の育成、選手の競技能力向上、スポーツ人材の拡充を図っている。活動先となるスポーツ学校とスポーツセンターでは、さまざまな競技が行われており、多くの学生が競技能力の向上に取り組んでいる。地方都市においても、各種スポーツを始める青少年が増加しつつあるが、多くの分野において、指導者が不足しており、陸上競技に関しても、競技能力向上のために、今回の要請に至った。短距離・中距離・長距離(マラソン含む)、投てき等のいずれかの種目の競技経験があり、指導ができる人材が求められている。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

同僚コーチと相談の上、以下の活動を行う。

- ・短距離、中距離、長距離、投てき、走り幅跳び等のいずれかの種目を担当し、直接指導。
- ・担当する選抜選手以外に対する体幹、補強トレーニングの支援
- ・選手及びコーチに対する陸上種目全般に関する総合的な競技力向上を目指した提言や助言。
- ・市内及び市外の学校巡回による陸上競技の紹介、普及活動。

活動は主に、早朝に週4~5回、午後(15:00~18:00)週6回程度。

ただし、試合、大会、遠征等がある場合は連続して活動することもある。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

陸上競技場(サッカー・グラウンドに併設)

4) 配属先同僚及び活動対象者

配属先同僚:

コーチ (40代、男性、初代JVのカウンターパート)

活動対象者:

地区選抜選手 (男6名女6名、中学生～高校生)、スポーツ学校選手 (男10名 女 3名、中学生～高校生)、 女子大学生2名、インドネシア陸上連盟(PASI)所属コーチ3名、他学校教師

5) 活動使用言語	6) 生活使用言語	7) 選考指定言語
インドネシア語	インドネシア語	

【資格条件等】

[免許]：（ ）	[学歴]：（大卒） 備考：当国での査証取得に必要
[性別]：（ ） 備考：	[経験]：（指導経験）2年以上 備考：技術指導を行う上で必要
[参考情報]：	
・競技経験5年以上	

任地での乗物利用の必要性
不要

【地域概況】

[気候]：（熱帯雨林気候） 気温：（20～35℃位）	[電気]：（安定）
[通信]：（インターネット可 電話可）	[水道]：（安定）

【特記事項】

インドネシア側の査証手続きの問題により、他国の同隊次より赴任時期が遅れる。インドネシア政府の方針で、自衛隊勤務経験者及び海外における軍歴保持者にはボランティアとしての査証が発行されないため、応募不可。